

陸前高田震災支援～被災者のいのち・生活を守るのは国の責任～

8月18日(木)～8月22日(月)まで陸前高田に震災支援へ行ってきました。

私は、側溝のヘドロのかき出し、個人宅の清掃・解体、仮設住宅への物資配りなどを行いました。室内はグチャグチャ、おもちゃや賞状・貯金箱、衣類に食器、足の踏み場もないくらいの状態。そんな光景を目にした後で支援を行ったのですが、自分の無力さを責めてしまいました。その時、安斉育郎先生の言葉で、「人間は無力ではなく微力である」を思い出し、自分自身を励ましました。

震災後5カ月経った今でも、十分な復旧・復興は行われていないのが現状だと感じました。先の見えない状態を打開するために、自分なりに体験を伝え、みんなが一丸となって国、政府、自治体を動かし、いろいろな形で大きな運動を展開して行かなくてはならないと強く思いました。その第一歩として多くの仲間へ声をかけ、『9.19 さよなら原発集会』に参加したいと思います。(東京民医連 小川日出人)



～私たちは決して忘れない～ 北中ブロック 三法人 合同で石巻支援へ

健康文化会、東京保健生協、東京ほくと医療生協の三法人では、8月21日(日)～23日(火)、合同で石巻へ支援者4人を送り出しました。

恐らく後にも先にもないであろう他人のお墓の掃除を体験し、津波のエネルギーのすごさと同時に、家族の命や今まで築きあげてきた暮らしを一瞬にして奪われた深い悲しみに思いをはせる機会になりました。復興支援はまだまだこれから、私たちにできることからやらなければと決意を新たにしています。(東京ほくと 乾 招雄)

“戦場のカメラマン”に徹底し、リアルタイムの報道に徹底しました。今回も一層、貴重な経験をしました。(東京保健 篠田 雅俊)



数人でやっと持ち上がる墓石が、ほぼ全て倒れている状況を見て、今回の震災がいかに強大なものだったかを改めて考えさせられました。自分で出来ることや団体で出来ることは何かを考え、継続的に支援をしていく必要があると強く感じました。(東京保健 藤井 強史)

墓石の瓦礫撤去を2日間、全力で取り組みました。教師・調理師さんなど様々な職種の方と連帯してボランティア活動を取り組みました。今後も取り組みが必要です。民医連のボランティア活動も復旧まで力を合わせる必要を感じました。(健康文化会 細見 学)